公益社団法人日本薬剤学会　2015 年度事業報告

（2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日まで）

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり，上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し，理事会を中心としたガバナンス体制の下，着実に事業の運用を図った．また，健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが，事業ごとに精査を行い，こちらも適正運用の達成に努めた．

会長

1　APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行った．
- 日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行った．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した．

2　国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した．

副会長総務担当理事

1　学会賞等表彰事業

1.1	薬師メダル	受賞者　永井恒司
1.2	学会賞	受賞者　小田切優樹
1.3	功績賞	受賞者　吉野廣祐
1.4	奨励賞	受賞者　登美斉俊，樋口ゆり子
1.5	タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞	---当期設定なし---
1.6	タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者　奥　直人
1.7	永井記念国際女性科学者賞	受賞者　Margareta Hammarlund-Udenaes
1.8	創剤特別賞	受賞者なし
1.9	優秀論文賞	受賞者　Y. Kaneo，K. Taguchi，T. Tanaka，S. Yamamoto，百　賢二，本間真人，鈴木嘉治，神林泰行，幸田幸直
1.10	製剤の達人称号	受賞者　脇山尚樹，山田昌樹，上村　稔，高橋嘉輝，水本隆雄，福居篤子，宮嶋勝春，南　秀実，清水隆弘
1.11	国際フェロー称号	受賞者　Margareta Hammarlund-Udenaes
1.12	「薬と健康の週間」懸賞論文	第 1 席　秤谷隼世

2　創剤開発・研究賞表彰事業

2.1	旭化成創剤開発技術賞	受賞者　関屋　昇，山本政信，井上靖雄
2.2	旭化成創剤研究奨励賞	受賞者　小川法子，木村　豪

3　創立 30 周年記念事業

- 本学会創立 30 周年にあたる第 30 年会前日に，以下のとおり 30 周年記念シンポジウムを開催した．

  2015 年 5 月 20 日　　長崎ブリックホール

- 30 周年の記念出版事業として，薬剤学会の歴史および大学・企業・医療の各分野の変遷をまとめた「薬剤学概史―私はこう見る 120 人による俯瞰図」を発刊した.

渉外担当理事

1　学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム SNPEE2015 を開催した．公募制にて学生演者を募集し、3 名の学生演者に自身の研究の魅力を聴衆に伝えて頂いた.また特別講演の先生として SNPEE 初代組織委員長である東京薬科大学 白坂 善之 様をお招きし，本シンポジウムの講評と将来の薬剤学を担う若手研究者に向けてのメッセージを頂いた.

「CROSSROAD OF Pharmaceutics ～これまでの 10 年と薬剤学の発展に向けて～」

2015 年 5 月 22 日　　長崎ブリックホール

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営を通して本学会の活動の広報を行った．また，ウェブサイトのイベント情報・関連学会情報で重要なものは適宜会員へのメール配信を行った．学会会員へのスピーディーな情報提供を目的として、毎月ニュースメールを配信した.

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，年会において「医薬品包装シンポジウム」を開催した.

「医薬品包装と ICT の融合による医療革新に向けて」

2015 年 5 月 23 日　　長崎ブリックホール

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，教育資料の企画，年会において以下のとおり薬学教育シンポジウムを開催した.

「薬に関わる医療事故を防止するために薬学教育は何を行うことが必要か」

2015 年 5 月 23 日　　長崎ブリックホール

国際連携担当理事

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し，講義･ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で企画した.

1.1　第 1 回英語セミナー

2015 年 9 月 12 日　　熊本大学

1.2　第 2 回英語セミナー

2015 年 12 月 22 日　　愛知学院大学

1.3　第 3 回英語セミナー

2016 年 2 月 29 日　　静岡県立大学

2　国際学会等協力事業

- FIP（国際薬学連合）

  FIP の Predominantly Scientific Member Organization として，Council Meeting で重要事項を審議する他，Section/SIG にメンバーを多数派遣する等，BPS の諸活動に積極的に参画した.

- AFPS（アジア薬科学連合）

  AFPS の Member Organization として，Executive Committee に役員を派遣する等，アジア地域における薬科学研究の発展に寄与した.

機関誌担当理事

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文を選考した．また、「薬剤学」の引用率向上を目的に，原著論文については冊子の発行と同時に，他の記事については冊子発行の半年後から全情報の J-STAGE での公開を継続している.

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査した.

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した.

Vol. 75 No. 3　2015 年 5 月 1 日発行
Vol. 75 No. 4　2015 年 7 月 1 日発行
Vol. 75 No. 5　2015 年 9 月 1 日発行
Vol. 75 No. 6　2015 年 11 月 1 日発行
Vol. 76 No. 1　2016 年 1 月 1 日発行
Vol. 76 No. 2　2016 年 3 月 1 日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った.

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度構築した編集委員新体制にて JDDST の購読促進を図った.

書籍担当理事

1　出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行った.

1.1　公益社団法人日本薬剤学会の 30 周年記念事業の一環として，わが国の薬剤学領域の教育・研究における歴史的な俯瞰をまとめ，創立 30 周年記念出版書籍として「公益社団法人日本薬剤学会　薬剤学概史―私はこう見る 120 人による俯瞰図　岡田弘晃・渡辺善照監修」を 2015 年 5 月 20 日に刊行し，会員に配賦した.

1.2　薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを総説的にまとめたシリーズ書籍, および薬剤学専門用語集を出版することを新たな目標として企画し, 活動を開始した.

技術担当理事

1　製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により, 滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営した．今期は以下のとおり開催した.

1.1　第 17 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「経口製剤の製剤設計と製造法」

2015 年 6 月 11-12 日、7 月 9-10 日　　名城大学名駅サテライト

1.2　第 9 回製剤技術伝承実習講習会

「塩・Cocrystal のスクリーニング及び結晶多形，水和物のキャラクタリゼーション」

2015 年 9 月 3-4 日　　東邦大学薬学部　習志野キャンパス

1.3　第 10 回製剤技術伝承実習講習会

「口腔内崩壊錠を製造して評価しよう -3-」

2015 年 9 月 17-18 日　　フロイント産業（株）技術開発研究所

1.4　第 18 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「非経口製剤の製剤設計と製造法」

2016 年 1 月 21-22 日、2 月 18-19 日　　名城大学名駅サテライト

2　製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で, 日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，様々な活動を展開した．今期の開催と認定者は以下のとおり.

2.1　第 6 回製剤技師認定試験

2015 年 10 月 24 日　　慶應義塾大学芝共立キャンパス／神戸薬科大学

2.2　第 6 回製剤技師認定者

家本涼香，池本圭一，岩塚欣也，宇野翔大，久保田浩敬，小林健太郎，小林佳之，
杉本　信，清　俊介，髙橋徹朗，長坂伸夫，西　潤一，西村武広，濱田義信，樋口雅治，
平石圭佑，藤本政弥，堀部雅史，松本昌三，三宅克紀，村田友昭，山下亮輔，山本ひとみ

製剤・創剤セミナー担当理事

1　製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し, サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下のとおり開催した.

1.1　第 40 回製剤・創剤セミナー

「創剤の夢舞台　- ハイブリッド化する医療に向けて - 」

2015 年 8 月 20-21 日　　淡路夢舞台国際会議場・ウェスティンホテル淡路

公開市民講演会事業担当理事

1　公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し，今期は以下のとおり開催した.

2015 年 9 月 25 日　　アルカディア市ヶ谷

「市民に愛されるかかりつけ薬剤師をめざして」

FG 担当理事

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行い，各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当する.

- 【経口吸収 FG】

経口吸収に関わる生体膜機能，吸収機構，体内動態，製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し，新たな経口吸収研究を開拓するため，以下のとおり第 30 年会でのラウンドテーブルセッションならびに合宿討論会を開催した.

・日本薬剤学会第 30 年会　ラウンドテーブル

「過飽和を利用した難溶解性薬物の製剤化技術：現状と今後の展望

オーガナイザー：片岡　誠（現リーダー），森部　久仁一（前リーダー）

2015 年 5 月 22 日　　長崎ブリックホール

・第 6 回経口吸収 FG 合宿討論会

2015 年 12 月 10～11 日　　兼六壮（金沢市）

- 【がん治療 FG】

第 24 回日本医療薬学会年会のジョイントシンポジウムにおいて得たアンケート結果をもとに，日本薬剤学会第 30 年会で以下のラウンドテーブルセッションディスカッションを開催した．また，第 25 回医療薬学会年会では，抗体医薬品にフォーカスを当て，以下のジョイントシンポジウムを開催した．同時に，以下 2 演題のポスター発表を行い，臨床薬剤師への情報発信を行った.

・日本薬剤学会第 30 年会　ラウンドテーブル

「医療現場における抗がん薬製剤の現状と薬剤学的な課題―日本医療薬学会とのジョイントシンポジウムでのアンケート調査から見えてきたもの―」

2015 年 5 月 22 日　　長崎ブリックホール

・第 25 回医療薬学会年会　シンポジウム

「がん治療における抗体医薬品への期待：研究開発動向とさらなる発展に向けた創意工夫」

・第 25 回医療薬学会年会　一般演題（ポスター発表）

「医療現場における抗がん薬製剤の現状と薬剤学的課題 1
- 日本薬剤学会とのジョイントシンポジウムでのアンケート結果の解析 - 」

「医療現場における抗がん剤製剤の現状と薬剤学的な課題 2
- 日本薬剤学会年会におけるラウンドテーブルセッションの実施を受けて -
2015 年 11 月 21-23 日　　パシフィコ横浜

- 【経皮投与製剤 FG】

経皮投与製剤の基礎技術，経費投与製剤の臨床的評価，今後の展望について学会員の理解を深めるために，以下のとおりシンポジウムを開催した.

・第 7 回経皮 FG シンポジウム（TDDS 世界シンポジウム 2015 との合同で開催）
2015 年 9 月 26 日　　虎ノ門ヒルズフォーラム

- 【経肺経鼻投与製剤 FG】

吸入剤開発の基礎研究，臨床で使用されている吸入剤の吸入特性評価，製薬会社における吸入剤開発の実例，吸入剤治療に関する臨床現場での問題点について以下のシンポジウムを開催し討論した.

・フォーラム 2015/第 23 回クリニカルファーマシーシンポジウム
「吸入剤の基礎から臨床」
2015 年 7 月 5 日　　名古屋国際会議場

- 【核酸・遺伝子医薬 FG】

核酸・遺伝子医薬 FG の目標である「デリバリーシステムの標準的評価方法の提案と基礎研究と核酸医薬開発との連携推進」の実現に向けて，日本薬剤学会第 30 年会において,以下のラウンドテーブルを開催した.

・日本薬剤学会第 30 年会　ラウンドテーブル
「核酸医薬デリバリー技術の評価の標準化（標準評価方法の提案）
～オールジャパンで最強のデリバリー技術を生み出すために～」
2015 年 5 月 22 日　　長崎ブリックホール

- 【薬物相互作用 FG】

本年度は，薬物相互作用予測手法の問題点，最新予測手法の医薬品開発への応用，製薬企業での申請時における薬物相互作用に対する取り組みの実例に関して意見交換および議論する場として，以下のシンポジウムを開催した.

・第 36 回日本臨床薬理学会学術総会　日本薬剤学会薬物相互作用 FG 共催シンポジウム
「薬物相互作用の最新知見」
2015 年 12 月 11 日　　京王プラザホテル

- 【医療 ZD と完全分業 FG】

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目的に，以下のセミナー，総会，講演会を開催するとともに，「薬剤学」に寄稿した.

・日本薬剤学会第 30 年会　ランチョンセミナー
「医療 ZD と完全分業」　　発表講演：永井恒司（リーダー）
2015 年 5 月 23 日　　長崎ブリックホール

・薬学教育協議会総会
「医師が処方し薬剤師が調剤する」国際標準の医薬分業について
意見発表：永井恒司（リーダー）
2015 年 6 月 26 日　　慶應義塾大学

・日本社会薬学会講演会
「国際標準の分業「医師が処方し薬剤師が調剤する」発祥の原点」
特別講演：永井恒司（リーダー）
2015 年 11 月 15 日　　北里大学

・薬剤学 Vol.76, No.2, p.108 (2016)
「“いきつけ薬局”と“かかりつけ薬局”」　　代表執筆：永井恒司（リーダー）

- 【DDS 製剤臨床応用 FG】

アカデミア発 DDS 製剤シーズの臨床応用をしていくための諸課題や医薬品規制環境に焦点をあて，以下のシンポジウム及び合宿討論会を実施した．合宿討論会の詳細は「薬剤学 76 巻 3 号」に掲載予定である．

・日本薬剤学会第 30 年会　学術シンポジウム
「アカデミア発 DDS 製剤シーズによる医療イノベーション」
2015 年 5 月 22 日　長崎ブリックホール

・第 31 回日本 DDS 学会学術集会シンポジウム
「第 2 回 DDS マッチングシンポジウム」
2015 年 7 月 2 日　京王プラザホテル東京

・第 5 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会
2015 年 11 月 6-7 日　KKR ホテル熱海

- 【PVM FG (PVM: Product Value Maximization for Patient)】

未充足の臨床ニーズがあるにも関わらず，経済的なメリットや規制面での制約，情報ネットワークの未整備などによって現在十分な取り組みが行われていない小児を対象とした製剤開発および製剤研究について，研究会を開催し課題や取り組みを共有した．さらには小児製剤に関する添加剤情報について調査し発信した．

・日本薬剤学会第 30 年会　ランチョンセミナー／ポスター掲示
2015 年 5 月 21 日　長崎ブリックホール

・立命館大学創剤・製剤技術研究コンソーシアム研究会の協力開催
「小児製剤開発の現状と最近の取り組み」
2015 年 10 月 16 日　立命館大学朱雀キャンパス

・ラジオ NIKKEI 出演
「小児製剤に関する日本薬剤学会の取り組み」
2015 年 11 月 2 日

・第 3 回 PVM 研究会＆意見交換会
2016 年 2 月 5 日　タワーホール船堀

- 【物性 FG】

製剤の品質･有効性･安全性向上のための薬品原薬，製剤原材料ならびに製剤の物性の評価・評価手法に関する調査研究として，顕微分光法をテーマとして取り上げセミナーを開催した．また，新規原薬形態として注目されているコクリスタルについて，国内外における現状を分析し，開発から申請に繋がるレギュレーションにおける問題点について議論した．議論の内容は，日本薬剤学会第 31 年会サテライトとして「物性・前臨床開発 FG ジョイントセミナー2016」にて報告する予定である．

・物性 FG セミナー2016
「原薬と製剤を結ぶイメージング技術」
2016 年 1 月 22 日　星薬科大学

- 【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】

2015 年度は委員会を 2 回（4 月 20 日及び 2 月 5 日）開催するとともに，第 30 年会での発表や慶應義塾大学で講演会を開催した．

・日本薬剤学会第 30 年会　ランチョンセミナー／ポスター掲示
2015 年 5 月 22 日　長崎ブリックホール

・第 1 回講演会（主催）
「実例から学ぶはじめての QbD」
2015 年 9 月 18 日　慶應義塾大学芝共立キャンパス

この際，Risk の洗い出しと解決すべき課題の掘り起こしのためのアンケート調査を実施した．

- 【臨床製剤 FG】

従来医療機関内で調製されてきた院内製剤について医療機関，大学，製薬企業など様々な角度から議論し，今後の院内製剤のあるべき姿を考える端緒として，ジョイントシンポジウムを開催した．

・第 25 回日本医療薬学会年会
「院内製剤の未来に向けて　－薬剤師（Pharmacist-Scientist）に求められるもの－」
2015 年 11 月 21-23 日　　パシフィコ横浜
演題のひとつであった河野弥生先生（東京理科大学薬学部薬学科）による発表，「大学から発信する Evidence-Based Hospital Formulation (EBHF)」は日本医療薬学会発行の学術誌「医療薬学」にレビューとして掲載予定である．

- 【粉体プロセス FG】

各種粉体プロセスに関して議論を深め，ボトムアップの形で製剤の発展に貢献することを目的とし，以下のとおり合宿討論会を開催した．

・粉体プロセス FG 合宿討論会
2015 年 11 月 2-3 日　　大阪ガーデンパレス

- 【前臨床開発 FG】

前臨床開発に関わる諸問題，例えば原薬形態の効率的な決定法，加速試験が困難な製剤の判断法，安全性試験の製剤設計などをテーマとして，学術内容にタイムラインやリスクマネージメントのビジネス視点を含めた議論を行うべく活動を行った．AAPS 年会におけるシンポジウムの共催を予定していたが，本年度は時間的制約により実施できなかったため，来年度に向けた提案を行い，採択された．

・第 1 回前臨床開発 FG 合宿討論会
2015 年 12 月 10-11 日　　KKR ホテル逗子松汀園
（薬剤学第 76 巻 4 号に報告を掲載予定）
・薬剤学第 75 巻 5 号にて FG 設立趣旨の紹介
・AAPS Oral Absorption FG と共同で，2016 年度 AAPS 年会シンポジウムを提案
（5 件立案，1 件採択）

- 【モデリング＆シミュレーション FG】

モデリング＆シミュレーション技術の動向を調査し，技術の普及を目指した活動について検討を行った．ポータルサイトとしての本 FG 独自の HP を立ち上げるとともに，技術普及に向けてチュートリアルセミナーの検討を行った（日本薬剤学会第 31 年会にて実施を予定）．

年会長

1　年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った．口頭またはポスターによる研究発表，特別講演，招待講演，各種受賞講演，各種シンポジウム，ランチョンセミナー，企業展示会等の多種多様なプログラムを設けた他，昨年に引き続きラウンドテーブルセッション形式での討論を行った．今期の開催期間およびメインテーマは以下のとおり．

1.1　日本薬剤学会創立 30 周年記念シンポジウム
「創薬・創剤の新たな方向性を探る」
2015 年 5 月 20 日　　長崎ブリックホール

1.2　第 30 年会
「薬剤学による医療イノベーション・創薬維新　－30 年の節目を迎えて－」
2015 年 5 月 21-23 日　　長崎ブリックホール，長崎新聞文化ホール

学会運営

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した.

第 1 回理事会　2015 年 4 月 21 日
第 2 回理事会　2015 年 5 月 20 日
第 3 回理事会　2015 年 9 月 25 日
第 4 回理事会　2016 年 1 月 28 日

2　評議員会および総会

正会員で構成される学会の最高の決議機関である総会，また，この総会に上程される全ての議案について審議を行う機関である評議員会を以下のとおり開催した.

2.1　評議員会　2015 年 5 月 22 日　長崎ブリックホール
2.2　定時総会　2015 年 5 月 22 日　長崎ブリックホール

なお、2015 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧
2015年4月1日から2016年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業会計（公1）				
APSTJ2025推進事業	0	701,700	−701,700	
国際標準医薬分業事業	0	0	0	
学会賞等表彰事業	823,999	3,852,852	−3,028,853	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,500,000	1,501,970	−1,970	
創立30周年記念準備事業	14,550	7,939,093	−7,924,543	
広報委員会事業	0	7,560	−7,560	
医薬品の包装と情報分科会事業	20,000	223,266	−203,266	
教育分科会事業	0	0	0	
学生シンポジウム事業	60,000	317,822	−257,822	
国際学会等協力事業	0	1,975,424	−1,975,424	
英語セミナー事業	99,000	453,200	−354,200	
機関誌出版事業	1,399,309	9,226,196	−7,826,887	
「薬剤学」編集委員会事業	72,000	406,289	−334,289	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	0	0	0	
製剤技術伝承講習会事業	10,615,000	8,309,687	2,305,313	
製剤技師認定事業	1,350,000	1,329,851	20,149	
製剤セミナー事業	9,403,435	9,381,754	21,681	
FG統括委員会事業	2,935,000	3,240,047	−305,047	
公開市民講演会事業	0	263,535	−263,535	
年会事業	33,590,315	32,456,805	1,133,510	
共通	11,797,000	4,812,842	6,984,158	
小計	73,679,608	86,399,893	−12,720,285	
法人会計	13,084,848	10,914,677	2,170,171	
合計	86,764,456	97,314,570	−10,550,114	

貸借対照表
2016年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ資産の部			
1．流動資産			
現金預金	26,056,853	38,223,313	−12,166,460
普通預金	5,292,331	8,746,875	−3,454,544
郵振/会費	18,007,310	25,813,654	−7,806,344
郵振/講習会	1,215,398	3,485,616	−2,270,218
郵振/セミナー	1,541,814	177,168	1,364,646
未収入金	151,200	0	151,200
前払費用	5,456,681	2,274,622	3,182,059
流動資産合計	31,664,734	40,497,935	−8,833,201
2．固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2)特定資産			
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	35,000,000	0
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	425,156	427,126	−1,970
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	7,900,000	0
特定資産合計	43,325,156	43,327,126	−1,970
(3)その他固定資産			
什器備品	4,200	6,297	−2,097
差入保証金	100,000	100,000	0
その他固定資産合計	104,200	106,297	−2,097
固定資産合計	63,429,356	63,433,423	−4,067
資産合計	95,094,090	103,931,358	−8,837,268
Ⅱ負債の部			
1．流動負債			
未払費用	3,823,155	1,110,254	2,712,901
前受金	0	30,000	−30,000
前受会費	18,509,000	18,662,000	−153,000
預り金	104,411	201,466	−97,055
仮受金	0	20,000	−20,000
未払消費税等	100,000	800,000	−700,000
流動負債合計	22,536,566	20,823,720	1,712,846
負債合計	22,536,566	20,823,720	1,712,846
Ⅲ正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	20,000,000	20,000,000	0
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
2．一般正味財産	52,557,524	63,107,638	−10,550,114
（うち特定資産への充当額）	(43,325,156)	(43,327,126)	(−1,970)
正味財産合計	72,557,524	83,107,638	−10,550,114
負債及び正味財産合計	95,094,090	103,931,358	−8,837,268

正味財産増減計算書
2015年4月1日から2016年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	216,000	216,000	0
基本財産受取利息	216,000	216,000	0
特定資産運用益	323,999	323,999	0
特定資産受取利息	323,999	323,999	0
受取会費	23,594,000	23,288,000	306,000
正会員	13,269,000	12,858,000	411,000
学生会員	1,765,000	1,950,000	−185,000
賛助会員	8,560,000	8,480,000	80,000
事業収益	61,431,695	59,488,332	1,943,363
学術集会・委員会等事業収益	56,682,386	56,224,980	457,406
参加費	31,929,000	33,437,000	−1,508,000
助成金・補助金	2,073,000	150,000	1,923,000
寄付金・協賛金	3,200,000	5,650,000	−2,450,000
セミナー共催金	3,024,000	3,588,736	−564,736
広告料	2,775,600	1,729,244	1,046,356
出展料	13,680,786	11,670,000	2,010,786
学会誌等出版事業収益	1,399,309	1,583,352	−184,043
購読料	790,819	806,857	−16,038
投稿料・別刷料	226,800	343,424	−116,624
許諾料・使用料	335,034	351,765	−16,731
広告料	46,656	81,306	−34,650
学会賞等表彰事業収益	2,000,000	300,000	1,700,000
助成金・補助金	500,000	300,000	200,000
寄付金・協賛金	1,500,000	0	1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,350,000	1,380,000	−30,000
受験料	890,000	880,000	10,000
認定料	460,000	500,000	−40,000
雑収益	1,198,762	1,605,774	−407,012
雑収益	1,194,815	1,603,318	−408,503
受取利息	3,947	2,456	1,491
経常収益計	86,764,456	84,922,105	1,842,351
(2)経常費用			
事業費	86,399,893	82,445,286	3,954,607
給料手当	960,000	960,000	0
臨時雇入金	5,251,156	2,248,000	3,003,156
会場費	11,124,846	21,205,446	−10,080,600
旅費交通費	2,441,739	4,596,402	−2,154,663
会議費	2,961,113	3,621,227	−660,114
関連行事費	6,628,632	11,319,812	−4,691,180
賞状・賞牌・副賞費	4,392,361	2,896,814	1,495,547
通信運搬費	2,596,085	1,716,089	879,996
ウェブサイト管理費	1,668,232	789,882	878,350
消耗品費	566,863	519,632	47,231
印刷製本費	17,071,877	11,224,443	5,847,434
貸借料	13,133,275	1,770,260	11,363,015
保管料	252,720	252,720	0
諸謝金	6,326,565	5,654,381	672,184
支払負担金	1,774,564	1,854,245	−79,681
業務委託費	8,928,361	10,433,669	−1,505,308
雑費	321,504	1,382,264	−1,060,760
管理費	10,914,677	10,234,535	680,142
給料手当	960,000	960,000	0
旅費交通費	356,655	297,290	59,365
会議費	3,131,770	2,067,848	1,063,922
通信運搬費	1,337,155	1,165,687	171,468
消耗品費	34,944	30,175	4,769
減価償却費	2,097	2,097	0
印刷製本費	414,844	403,849	10,995
貸借料	298,080	298,080	0
租税公課	100,000	800,000	−700,000
業務委託費	2,918,009	2,911,220	6,789
公認会計士報酬	810,000	787,500	22,500
雑費	551,123	510,789	40,334
経常費用計	97,314,570	92,679,821	4,634,749
当期経常増減額	−10,550,114	−7,757,716	−2,792,398
当期一般正味財産増減額	−10,550,114	−7,757,716	−2,792,398
一般正味財産期首残高	63,107,638	70,865,354	−7,757,716
一般正味財産期末残高	52,557,524	63,107,638	−10,550,114
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産期末残高	20,000,000	20,000,000	0
Ⅲ 正味財産期末残高	72,557,524	83,107,638	−10,550,114

財産目録
2016年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	預金	普通預金		5,292,331
		三東UFJ/江戸川橋	運転資金として	2,288,278
		三東UFJ/江戸川橋(ｾﾐﾅｰ)	同上	695,886
		三住/大塚	同上	988,527
		三住信/本店	同上	1,319,640
		郵振/会費	同上	18,007,310
		郵振/講習会	同上	1,215,398
		郵振/製剤セミナー	同上	1,541,814
	未収入金	バナー広告掲載未収額	法人会計への未収額	151,200
	前払費用	加盟団体年会費, H28表彰副賞費等	公益目的事業の前払分	5,456,681
流動資産合計				31,664,734
(固定資産)				
基本財産			公益目的事業に必要なその他の活動の用	20,000,000
	定期預金		に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
		(定期)三住信/本店		20,000,000
特定資産				43,325,156
	積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)		公益目的保有財産であり、運用益を公益	35,000,000
		(定期)三住信/本店	目的事業(ﾋｸﾞﾁ記念各賞表彰事業)に使用	30,000,000
		郵振/講習会	同上	5,000,000
	積立預金(創剤開発・研究賞積立金)		公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)	425,156
		(普通)三住信/本店	に使用	425,156
	積立預金(学術集会基金)		公益目的保有財産であり、運用益を公益	7,900,000
		郵振/会費	目的事業(年会事業)に使用	7,900,000
その他固定資産				104,200
	什器備品	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	法人の管理運営に供している資産	4,200
	差入保証金	事務所借室学会ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ	法人の管理運営に供している資産	100,000
固定資産合計				63,429,356
資産合計				95,094,090
(流動負債)				
	未払費用	学会誌編集印刷費, 原稿料等	公益目的事業の未払分等	3,823,155
	前受会費	次年度以降会費	事業及び法人運営の前受分	18,509,000
	預り金	源泉所得税	法人の管理運営業務に係る未払分	104,411
	未払消費税等	未払消費税等		100,000
流動負債合計				22,536,566
負債合計				22,536,566
正味財産				72,557,524

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
(1)固定資産の減価償却
有形固定資産の減価償却は定額法によっている。
(2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	0	0	35,000,000
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	427,126	1,500,000	1,501,970	425,156
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	0	0	7,900,000
小計	43,327,126	1,500,000	1,501,970	43,325,156
合計	63,327,126	1,500,000	1,501,970	63,325,156

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
小計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	425,156	(0)	(425,156)	(0)
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	(0)	(7,900,000)	(0)
小計	43,325,156	(0)	(43,325,156)	(0)
合計	63,325,156	(20,000,000)	(43,325,156)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	436,547	432,347	4,200
合計	436,547	432,347	4,200

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。 （単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
助成金						
Award Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	500,000	500,000	0	注)
Conference Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	1,600,000	1,600,000	0	注)
助成金	兵庫県淡路市	0	473,000	473,000	0	注)
合計		0	2,573,000	2,573,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 （単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

独立監査人の監査報告書

平成28年4月19日

公益社団法人　日本薬剤学会
会長　山下　伸二　殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士　馬目利昭

＜財務諸表監査＞

私は、公益社団法人日本薬剤学会の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの平成27年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽の表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜財産目録に対する意見＞

私は、公益社団法人日本薬剤学会の平成28年3月31日現在の平成27年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本薬剤学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査報告書

公益社団法人日本薬剤学会
会長　山下伸二　　殿

2016年 4月23日
公益社団法人日本薬剤学会
監事　菊池　寛
監事　渡辺善照

私たちは、2015年4月1日から2016年3月31日までの2015年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上